

松江赤十字病院 『患者さまの権利章典』

「医療は、患者さまと医療提供者とのお互いの信頼関係をもとに協力して作り上げていくものであり、患者さまに主体的に参加していただくことが必要です。」
このような考え方にもとづき、松江赤十字病院は、患者さまの権利や責務についてつぎのとおり表明します。

1. 患者さまには、医療提供者との相互の協力関係のもと、良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 患者さまには、診療に関して十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
3. 患者さまには、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについて十分理解できるまで質問する権利があります。
4. 患者さまには、医療従事者が提案する治療法に対して自らの意思で決定できる権利があります。
5. 患者さまには、診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られる権利があります。
6. 患者さまには、医療提供者に対し患者さま自身の健康に関する情報をできるだけ正確に提供する責務があります。
7. 患者さまには、病院の規則を守る責務があります。

くつぎたいは

第23号(2008年 Vol.1) 松江赤十字病院

病院理念

松江赤十字病院は、地域の中核医療機関として、「高度」「良質」「公正」な医療を提供します。

年頭所感

院長 秦

公平



あけましておめでとうございませう。皆様良いうお正月をお迎えになつたでしょうか。
国も自治体も財政難となり、福祉の切り捨ては今後も続きそうなき配です。小泉内閣以来の診療報酬削減に伴い、病院はどこも苦しい経営状況に追い込まれ、患者さんの医療費の負担も増えてきました。

国民に対して今まできちんとしてきた。診療報酬が下がることは国も会社も国民も負担が減ることになるので良いことのように思われます。しかし、今後団塊の世代が高齢化し、病人は自然に増えますから、当然医療費も自然に増えます。診療報酬を下げるという

最近時に報道されるようになってきていますが、日本の医療費は先進国中低い方であり、逆に国民自己負担は非常に高いという結果がでています。また薬剤や医療機器の値段は世界一高いそうです。こういうことは

うことは、その自然増の部分でさえも医療機関の努力で吸収しろということなのです。医療の質の確保・向上や安全な医療を求められ、なおかつ自然増の負担を病院のみでどうにかすることは不可能です。あんまりだと思われませんか。解決策の一つとして医療関係者の給料を下げるが、そうすると医療に職を求めると人は減っていく、医師・看護師不足となり、医療の質も下がるでしょう。研修医制度発定により、

今まで医師を病院に派遣してきた大学にも、医師がいなくなりました。大学に残る研修医が少なく、大学を維持するために今も今でも派遣していた病院から医師を引き上げたためです。地方は医師不足となり、残った医師達の負担が増え、ついには耐えきれなくなつて開業するかもっと条件の良い身体的に楽な病院へ移るこ

とになります。こうして島根県でも西部地方や中山間地は医療崩壊が現実のものとなってきました。
大学に地方枠を作り、医師を増やそうとしても、一人の医師が誕生するまでには十年近くかかります。その間にこの島根県の医療が保たれるのか、あるいは崩壊してしまうのか、医療関係者として非常に不安な気持ちです。
今こそ医療制度改革の方向を転換させなければならぬ時期だと思えます。今、問題となつています救急車のたらい回しの報道のように、貴方が病気になる時に十分な医療を受けられない時代が近づいてきているような気がしてなりません。皆さん国へ向かって声をあげていただけませんか。
最後に、今年こそは良い年でありませう。



各科紹介

リハビリテーション科

当院リハビリテーション科はH14年のリハビリテーション病棟開設と共にスタートし、現在院長秦(専門領域:整形外科)と私田村(専門領域:神経内科)の医師

では各科の医師にもリハビリテーションの必要性が周知され、現在では、ほぼ院内全ての科よりリハビリテーションの依頼



2名と、理学療法士17名、作業療法士8名、言語聴覚士4名が所属しております。所属人員の規模では、山陰の急性期病院の中でもかなり大きな規模となっておりますが、まだまだ人員不足であり、リハビリテーション施行の対象者は、現在のところ、ほとんどが当院急性期入院患者様に限られている状況です。開設当初より、入院早期からリハビリテーションを施行し、なるべく多くの方々に自宅に帰っていただける様目指してまいりました。昨今

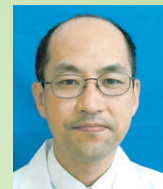
があり、依頼を頂いたほぼ全ての患者様にリハビリテーションを行っております。各療法士も、様々な研修会に参加し、脳血管障害の治療法、骨折な

どの整形外科疾患の運動器療法に加え呼吸リハビリテーション、嚥下リハビリ、失語症、高次機能障害に対する訓練、リンパドレナージなど、まだまだ充分ではありませんが、様々なリハビリテーションの要望にも応じることができるようになってきております。またリハビリテーションは他の分野以上に医療と介護の両方の分野に大きく関わっているため、退院後も引き続き、リハビリテーションが必要となった場合、介護保険利用でのリハビリテーションの引継ぎや、退院前には退院後、患者様と関わっていただく方々と一緒に、カンファレンスを行い介護法の理解をしていただき、無理なく家庭に戻っていただける様にしております。必要な時には退院前、実際に患者様のお宅に伺い患者様が生活しやすい

よう手すりの位置等を相談させて頂くこともおこなっております。現在の課題としては、①島根県東部診療圏の中で地域との連携を深め途切れることのないリハビリテーションを円滑に進めていくこと、②各人がさらに研修を行い地域に対して情報を発信していくこと、③毎年のように変わる診療報酬改定によってリハビリテーション制度自体が大きく変わるため、その対応をすばやく行い患者様にご心配をおかけしないようにすること等があげられます。当科としては、今後も一人でも多くの方々に、自宅に喜んで帰っていただけるようお手伝いさせていただきますので、今後とも宜しくお願い致します。

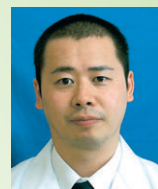


9月1月医師紹介



形成外科 安楽 邦明

九月から形成外科に勤務しています。出身は長崎県ですが、以前二年間当院に勤務していましたので第二の故郷に帰ってきた感じがします。形成外科は体の表面あらゆることを対象としています。気になることがあれば気軽に相談ください。



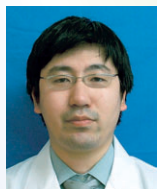
整形外科 堀 聖吾

京都からやってきました。高校、大学とラグビーをしておりまして、体力は自信があります。少しでも皆様の笑顔が増えたらと願っております。よろしくお祈りします。



泌尿器科 田路 澄代

十月より松江に赴任しました。泌尿器科といえば女性の方は男性よりも受診しにくいかもしれませんが、トイレに近い、尿が漏れるなど尿に関するお困りの方は気軽に受診して頂ければと思います。



脳神経外科 野坂 亮

十月一日付で赴任しました野坂 亮と申します。若輩者ですが、できるだけわかり易く病状、手術などの説明ができるよう心掛けております。どうぞ宜しくお願いします。



麻酔科 松田 高志

二年前、研修医としてお世話になりました。現在は手術麻酔を主な業務としております。麻酔に関して不明な点がございましたら、何でも御質問下さい。よろしくお祈りします。



救急部 小池 誠

救急部外科として静岡より赴任して参りました。専門は消化器、乳腺であります。多くの癌診療にも携わってきました。患者様中心の医療を目指しがんばりたいと思います。どうぞよろしくお祈りいたします。

クリスマスキャンドルサービス



患者サービス部長
三浦 弘資

十二月二十一日(金)に松江赤十字病院職員によるクリスマスキャンドルサービスを行いました。

これは、松江赤十字病院看護学校の学生が行ってきた伝統を継承したもので、病院職員としては今回二度目となるものです。

患者さまの一日も早い回復の意欲や希望につながればという願いを込め、院長・事務部長・看護部長も参加し、職員多数でコーラス隊を結成し、各病棟を巡りました。患者さまからは感謝の言葉を多く頂き、是非次年度につなげていきたいと思っております。

新館六階東病棟
渡部 恵理
患者様の一日も早い回復

を願い、また少しでも癒しの場が提供できるよう、昨年に引き続き今年もキャンドルサービスに参加させていただきました。

数回の練習で二重唱の音を奏でることは、とても難しく、勤務の都合上、なかなか練習にも参加することが出来ませんでした。また今回は「きよしこのよる」の日本語と英語の歌詞にも挑戦したため、不安を抱いたままの本番となりました。本番では、患者様が涙を流しながら手をたたいて聞いてくださる姿を見てとても感動しました。患者様から「本当にいい歌声だった。感動したよ。また来年もやってね。」という言葉をかけていただき、本当に参加できてよかったですと思います。

臨床工学技士
村上 純司

今回、キャンドルサービスに参加して私が感じたことは感動の二文字でした。もともと人前で何かをするとか、行事に参加することは嫌いではなかったのですが、キャンドルサービスへの参加を要請された時、あまり迷うことなく参加することを決めました。初めは簡単に考えていましたが、合唱

は思いのほか難しく、本番で上手く歌えるか不安になりましたが、それでも自分なりに一生懸命練習に取り組みました。本番が始まるまで、感動とかさういった事は感じないと思っていましたし、その日の私達の仕事は患者さまを感動させることだと思っていました。しかし、いざ本番が始まると、歌いながら歩く私達に手を合わせて下さる方々の中には涙まで流されている方もおられました。普段何かをして人を感動させることなどそう簡単には無いことなので、人に感動を与えていると思うと自分も感動してしまいました。合唱は自分なりに頑張った歌い満足しています。



キャンドルサービスはいつもとは違う雰囲気の中で患者さまだけでなく、参加した職員もともに感動を分かちあえる素晴らしい行事だと思えました。

認定看護師の紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師
石 飛 仁 美

私たち、人間にとつて「皮膚」はなくてはならない最大の臓器であると言われています。皮膚に傷を負ったりすると身体的苦痛だけでなく、精神的にも苦痛を生じたりボディーイメージの低下もきます。

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、創傷ケア(褥瘡・創・胃瘻・瘻孔ケア等)・オストミー(人工肛門保有者のケア等)・失禁ケア(おむつ・バルンケア・自己導尿等)の三領域にわたり熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護の実践・看護ケアの広がりや質の向上を図ることを目的にしています。特に、その三領域の共通項である「スキンケア」は近年特に重要視されており日々のケアに生かすよう努めています。

先日の新聞に全国の平均寿命の記事が掲載されていました。我が島根県

れ)や内的因子(栄養低下や加齢等)が挙げられています。その因子の加齢による皮膚の脆弱化も最も褥瘡発生の要因につながっていると考えます。

そのような加齢に伴う脆弱な皮膚を理解し観察し、適切なケアが提供出来るよう日々、まずは自分自身のスキンケアから、そしてスタッフのスキンケア、患者さまのスキンケアを実践していきたいと考えています。また、人工肛門のケアでもスキンケアは必須です。皮膚をきれいにするには最も大切なこと、それに加えてその人の皮膚にあった適切な装具の選択、交換間隔の設定もスキンケアの重要な要素であると考えます。

スキンケアに興味を持ってみませんか? 家族に褥瘡を作らさずきれいな皮膚を保持したいと思いませんか? 今、行っているケアを見直してみませんか? 三領域またはスキンケアに関する相談がありましたら是非ご連絡ください。

「あったか冬の鍋料理」

☆料理の世界☆

栄養課 片寄 茂人



じゃがいも (3個)

しいたけ (6枚)

にんじん (1本)

玉ねぎ (1個)

小松菜 (小、1束)

酒 (大さじ1と1/2)

冬の夕食の定番メニューと言えば、やはり鍋料理ですね。鍋の良さは何と云っても、家族や仲間とワイワイ楽しく食べられること。鍋は、食とコミュニケーションが融合したすばらしい料理と言えるでしょう。そして、南北に長く山海の幸、里の幸に恵まれた日本は、鍋料理のバリエーションが豊かで尽きることがありません。おいしい鍋の魅力を知り、多彩な鍋料理を楽しむ日本はまさに鍋王国です。



味付け

水 (6カップ)

みそ (大さじ7)

みりん (大さじ2)

しょうが (2かけ)

「おかず湯豆腐」

材料 (4人分)

豆腐 (絹ごし2丁)

豚バラ薄切り肉

(200g)

水菜 (2束)

水 (7カップ)

「サケのチャンチャン焼き風みそ鍋」

材料 (4人分)

さけ (4切れ)

今回紹介するのは「さけのチャンチャン焼き風みそ鍋」と「おかず湯豆腐」です。どちらも手軽に簡単に出来る鍋ですので、ぜひ鍋メニューの一品に入れて参考にしてください。

昆布 (1枚)



熱々のおいしい鍋をみんなで囲めば、自然に顔もほころび、箸も進み話も弾む楽しいひとときが訪れます。是非この寒い冬を温かい鍋で乗り切ってください。

外来糖尿病教室



「ハルシーなおせち料理作り」に挑戦!



当院では外来糖尿病教室の中で毎年十二月にお正月料理の調理実習を行っています。今回も山陰中央新報ビルの料理教室会場を借りて栄養課の安原みずほ栄養士の指導のもと、一般の方を含む二十九人がおせち料理作りに挑戦しました。蟹の身と大根おろし、赤ピーマンなどを調味料で和えて柚子釜に盛り付けた「蟹のおろしあえ」、有頭海老の背を開き、葱としょがのみじん切りに塩、ごま油を混ぜてのせ、焼いた「有頭海老の開き焼き」などを、わいわい言いながらにぎやかに作りました。当日は三島豊史調理師も、茄子の薄切りをギョウザの皮に見立てた「茄子ギョウザ」や、きのこたっぷりのかき込み御飯などを披露。品数豊富で、それでもってヘルシーなおせち料理ができました。竹を器にして盛り付けるなど、粋な工夫で見た目も豪華。お雑煮や黒豆も並び、一足早いお正月気分を堪能した調理実習でした。



日時	テーマ	担当
1月23日	『健康と体力維持のためのリハビリ』	上田 正樹 理学療法士
2月26日	『腫瘍マーカーについて』	佐藤 仁俊 外科医師
3月26日	『がん治療時のスキンケア』	石飛 仁美 WOC認定看護師

- 日時 毎月第4水曜日 14時から20分程度の講演と質疑応答
- 会場 松江赤十字病院 本館1階 人間ドック控入室

くつろぎサロン
お知らせ
ミニ勉強会と
情報交換の会